

3年2組

羊のよつばちゃんとの3年目の暮らし ～わたしと、よつばと、ふたばと～



羊毛に触れて見つめ返す よつばちゃんとのこれまでの暮らし



10月、刈って保管してあったよつばちゃんの毛(原毛)から、草や小枝、小石やウンチなどを取り除き、洗ってきれいにする洗毛作業をしました。子どもたちは、「こんな所にクローバーが挟まっていたよ。大好きだから隠していたんじゃない」、「木の枝がたくさんある。これって秘密の通路(プール脇の路地)を通った時についたやつじゃないかな」と、これまでのよつばちゃんとの暮らしを思い返したり、よつばちゃんになりきって物語を作ったりしながら、楽しそうに洗毛作業をしていました。毛を傷めないように、指で優しく



つまむように洗い、すすぎを繰り返していくと、茶色だった原毛が真っ白になりました。

「よつばちゃんの毛ってきれいだね」と愛おしそうに手の平の中の羊毛を見つめる子どもたちでした。

中身がかわる

11月、大根葉を干して冬用の干し野菜作りをする子どもたちの姿がありました。しゃがんだり、膝をついたりして、大根葉を1枚1枚ブルーシートの上に並べて干しています。「こんなにたくさん広がって、森みたいだね」、「チモシーだけじゃ飽きちゃうもんね。この大根葉を使って料理を作ってあげよう」そんな楽しそうな声が聞こえていました。1枚1枚重ならないように並べられていく葉からは、乾きやすさを考慮した工夫が感じられました。そして、1枚ずつ丁寧に並べていく子どもたちの姿に、



よつばちゃんたちに食べさせるものだから大事に作ってあげたいという願いを感じました。なるほどなあと思ったのは、大根葉をブルーシートにそのまま並べて置いていくだけでなく、ブルーシートの上に一枚の新聞紙を広げて置いていたことです。「この方が早く乾くし、新聞が水分を吸収してくれるから、腐っちゃう葉も少なくて済む」今年で3回目となる冬を迎える準備は、これまでの経験が活かされているなあと思いました。今年の冬だからといって、何か特別なことをしていくわけではありません。いつもやっていること、毎年やってきたことを、今年の冬の準備でもやっていく。けれど、一つの作業の中にはこれまでの経験からの工夫があったり、技があったりする。『お別れ』を頭の隅に置きながら、これまでとは違う思いをもって、よつばやふたばとの暮らしをつくっていく。そんな今年の冬の暮らしのように思います。

どう終わりに向かっていくのか…



12月、「よつばたちとの一つ一つのことが最後になっていく。今できることを大事にしたい」、「最後の時に、もっとやっておけば良かったと思わなくて済むように、毎日の時間を大事にしたい」と子どもたち。散歩する子、草を取ってエサにする子、干し野菜でご飯を作る子、小屋の掃除をする子、冬囲いを補強する子など、それぞれが今やりたいことに一生懸命です。しかし、それぞれがやりたいことをやっている中であっても、お互いのしていることに自然と感謝の言葉が出たり、「緑の草こんなに取れてすごいね。干すと草原みたいできれい」と認め合ったり、「昔はふたばも抱っこできたのになあ」と思い出を語り合ったりしています。願いが同じだから、自然とお互いに響き合い、分かり合うことができるんだなあと感じます。そして、『よつばとふたばが今よりもっと幸せにくれますように』という願いをもってかわり続けている子どもたちだからこそ、自分とはちがう他者のこともやわらかに受け取りながら、自分たちのつながりや暮らしをより良いものにしていくんだと改めて思いました。

12月、「よつばたちとの一つ一つのことが最後になっていく。今できることを大事にしたい」、「最後の時に、もっとやっておけば良かったと思わなくて済むように、毎日の時間を大事にしたい」と子どもたち。散歩する子、草を取ってエサにする子、干し野菜でご飯を作る子、小屋の掃除をする子、冬囲いを補強する子など、それぞれが今やりたいことに一生懸命です。しかし、それぞれがやりたいことをやっている中であっても、お互いのしていることに自然と感謝の言葉が出たり、「緑の草こんなに取れてすごいね。干すと草原みたいできれい」と認め合ったり、「昔はふたばも抱っこできたのになあ」と思い出を語り合ったりしています。願いが同じだから、自然とお互いに響き合い、分かり合うことができるんだなあと感じます。そして、『よつばとふたばが今よりもっと幸せにくれますように』という願いをもってかわり続けている子どもたちだからこそ、自分とはちがう他者のこともやわらかに受け取りながら、自分たちのつながりや暮らしをより良いものにしていくんだと改めて思いました。